

学会からのメッセージ

くらしと“災害ごみ”

初めに、令和6年能登半島地震（2024）をはじめ、被災者の皆さまに謹んでお見舞いを申し上げます。

近年、日本では大きな震災や風水害、土砂災害が頻発しています。その結果発生する災害ごみは、廃棄物分野における大きな課題になっています。この問題は市民にとっても重要な問題であり、ぜひ市民の皆さまにもお伝えしたいと本書が企画されました。実は2021年頃から検討が始められたもので、無事本書が世に出ることになり、ほっとしています。

さて、本書で想定する読者は災害のことを考える市民です。災害のことを考えるときには、いのちを守り、くらしを守ることが最優先となります。本書はそうした観点から、必ずしもごみとは直接関係しない記事も含めて、大切だと思ったテーマを選び、特集が組まれています。

一方、災害時、身の安全をひとまず確保した後、次に問題になるのはくらしの場の回復です。そのために必要になるのが家

の中の災害ごみの片づけです。災害ごみは、被災するとすぐに市民が直面する問題というわけです。その災害ごみとの向き合い方を知ることは、くらしの場を確保する上でも大切です。一方で、地域の復旧・復興を進める上でも、地域の安全な環境を守る上でも、災害ごみを速やかに収集し、適切に処理することが必要です。本書には、こうした災害ごみの実態と対応について、ごみの学会ならではの情報が掲載されています。

ところで、災害ごみは被災する直前まで私たちのくらしを支える大切な家財道具でした。そう考えると、くらしを守ることと災害ごみの発生抑制はとても近いものだと思えてきます。そういう視点で本書を読み、また考えていただければ幸いです。

最後に、本書は被災地の復興に携わるかたわら災害廃棄物管理の研究を重ねる災害廃棄物研究部会のメンバーの多大な貢献を得て完成しました。読者の皆さまに、こうした活動を続ける学会員がいることをお伝えして、感謝の言葉に替えたいと思います。

(一社) 廃棄物資源循環学会 編集委員長 やまかわ はじめ 山川 肇

